－ヘップ（ＨＥＰ）国際セミナー参加レポート－

自然環境 の 定量化技術

６月６日（水）～８日（金）、（財）日本生態系協会主催のヘップ（ＨＥＰ）国際セミナーに参加しました。
ここでは、その内容をまとめてお知らせします。

ヘップ（ＨＥＰ）とは？

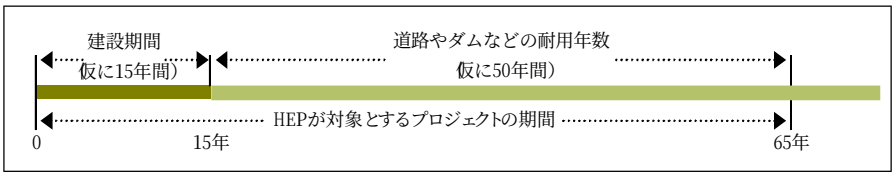
ＨＥＰ（Habitat Evaluation Procedures）は、「ハビタット（野生動物の生息地）評価手続き」と邦訳されます。これは、米国の国家環境政策法（ＮＥＰＡ）という法律に基づいて確立された手続き・手法で、米国の環境アセスメント制度の中で運用されてきました。ＨＥＰの目的は、「開発事業による環境への影響を、ハビタットの質と量により定量化し、評価・保全措置検討に適用する」ということです。

日本では「環境影響評価法」が成立し、従来の行政指導による環境アセスメント制度を法制化しました。また、対象項目に生態系や身近な自然等が含まれました。しかし、平成９年に成立したばかりの若い法律です。そこで、数十年の実績をもつ米国の環境アセスメントの手法について、今回学んできました。

ＨＥＰが対象とするプロジェクトの期間

ＨＥＰでは、**プロジェクトの建設期間と、完成後の耐用年数を加えた期間を対象**としています。

仮に、建設期間15年、耐用年数50年のダムがあるとすれば、６５年後までの影響予測をします。



ＨＥＰが対象とするプロジェクトの期間

評価種の選定

プロジェクトの内容や規模に応じて、評価すべき種は変わります。

評価種の選定方法の一例は右のとおりです。対象区域周辺の生息種リストを挙げ、各種について、様々な視点（希少性・特定ハビタットへの依存性・生育面積要求性・狩猟対象・国民に人気があるなど）で評価し、プロジェクトの保全目標に合致した種を評価種として選定します。

<3点 特に該当する　2点 普通　1点 少し　0点 該当しない>

種名	対象プロジェクトにおいて設定した目標「（不欄）のハビタットを保全する」								合計点
	国民に親しまれている種	狩猟対象となる野生動物	毛皮獣	広大な面積が必要な種	人為攪乱に敏感な種	特定ハビタット依存種	減少種、希少種	河畔地域に関係の深い種	

評価種の選定方法例（評価種選定マトリックス）

◆参加したセミナー◆

ヘップ（ＨＥＰ）国際セミナー　－　自然環境の定量化技術　－

【日時】平成13年6月6日(水)～6月8日(金)
【主催】（財）日本生態系協会
【支援】環境省／国土交通省／農林水産省／日本ビオトープ管理士会

【内容】
◆国家環境政策法に基づく環境アセスメント制度とヘップの位置付け
◆ヘップの基本概念と評価種の選定／◆ハビタット適性指数モデル
◆ヘップ計算方式・ケーススタディ／◆ヘップの結果と意思決定プロセス